

[成果情報名] イタリアンライグラス中晩生品種「ゆきつよし（系統名：KAIR-DS）」の品種特性  
[要約] 「ゆきつよし」は、乾物収量や越冬性、雪腐病耐性等に優れ、積雪寒冷地域に適した品種である。  
[部署] 山形県農業総合研究センター畜産試験場・草地環境部  
[連絡先] TEL 0233-23-8817  
[成果区分] 普  
[キーワード] 牧草、イタリアンライグラス、収量性、耐雪性、雪腐病耐性、越冬性

---

#### [背景・ねらい]

イタリアンライグラスは1年生のライグラスで、秋播きで越冬後春に出穂させて収穫する。耐寒性、耐雪性は主要なイネ科牧草より劣るが、初期生育が旺盛で、消化性、嗜好性に優れ、比較的耐湿性も有する。本県における適応性を調査・検討し優良品種を選定する。

#### [成果の内容・特徴]

イタリアンライグラス中晩生品種「ゆきつよし（系統名：KAIR-DS）」の生育特性は次のとおりである。

- 1 越冬性、早春の草勢、雪腐病耐性は、「ナガハヒカリ（標準品種・県優良品種）」より優れている（図1、表1）。
- 2 生草収量および乾物収量は、3年間平均で「ナガハヒカリ」よりそれぞれ18%、17%多い（表2）。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 栽培方法は、山形県飼料作物栽培指針に準ずる。
- 2 試験における栽培概要は以下のとおり。  
播種日：1年目・平成28年9月13日、条播（条間30cm）  
2年目・平成29年9月22日、条播（条間30cm）  
3年目・平成30年9月12日、条播（条間30cm）  
播種量：300g/a  
施肥量：粒状苦土石灰20kg/a、粒状ようりん10kg/a、基肥としてN、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、K<sub>2</sub>Oを各0.8kg/a  
追肥として、N、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、K<sub>2</sub>Oを早春各0.6kg/a、1番草刈取後各0.4kg/a

収穫日

	一番草	二番草
平成29年	5月22日	6月19日
平成30年	5月18日	6月13日
令和元年	5月22日	6月14日

[具体的なデータ]



図1 「ゆきつよし」の越冬後の状況(左:「ゆきつよし (KAIR-DS)」、右:「ナガハヒカリ」)

表1 生育調査結果(3ヵ年平均)

調査項目 評価単位	越冬性 1~9	早春の草勢 1~9	出穂期	雪腐病 1~9
ゆきつよし	5.7	6.2	5月20日	4.5
ナガハヒカリ (標準)	4.2	4.2	5月20日	5.5

※ 極不良を1、極良を9とする評点法

※ 雪腐病は、無または極微を1、甚を9とする評点法

表2 収量調査結果(各年および3ヵ年平均)

品種		草丈 (cm)		生草収量 (kg/10a)			
		一番草	二番草	一番草	二番草	合計	標準比
ゆきつよし	29年	115.0	92.8	3,250	1,984	5,234	115
	30年	91.8	82.4	2,729 a	1,434	4,163 a	132
	元年	102.2	67.1	2,503	1,175	3,678	108
	3ヵ年平均	103.0	80.8	2,827	1,531	4,358	118
ナガハヒカリ (標準)	29年	115.6	94.3	2,591	1,974	4,565	-
	30年	84.1	83.3	1,904 b	1,242	3,146 b	-
	元年	99.8	71.9	2,198	1,209	3,407	-
	3ヵ年平均	99.8	83.2	2,231	1,475	3,706	-

※年度ごとに異符号間に有意差あり(p<0.05)

品種		乾物率 (%)		乾物収量 (kg/10a)			
		一番草	二番草	一番草	二番草	合計	標準比
ゆきつよし	29年	13.0	13.1	422.6	260.1	682.7	115
	30年	11.2	18.2	305.5 a	260.5	566.0 a	130
	元年	15.7	18.6	393.0	218.0	611.0	108
	3ヵ年平均	13.2	16.1	373.7	246.2	619.9	117
ナガハヒカリ (標準)	29年	13.0	12.9	336.6	254.7	591.3	-
	30年	10.9	18.4	206.8 b	228.3	435.1 b	-
	元年	15.6	18.4	342.3	222.4	564.7	-
	3ヵ年平均	13.2	15.9	295.2	235.1	530.3	-

※年度ごとに異符号間に有意差あり(p<0.05)

[その他]

研究課題名：飼料作物優良品種選定調査

予算区分：県単

研究期間：令和元年度（平成28年度～令和元年度）

研究担当者：樋田 剛、秋葉 浩一、菅 和寛

発表論文等：なし